学校番号	309

令和５年度　理科

教科	理数	科目	理数化学	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「改訂　高等学校　化学」　（第一学習社）						
副教材等	「セミナー化学」　（第一学習社） 「フォトサイエンス化学図録」　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書を中心に化学の基礎的知識を学習する。それに加えて実験を重視し化学の実験操作の基本的技術を身につける。これまでの理数化学の学習をもとに、さらなる科学的学習態度（疑問→仮説→実験→結果→考察）の養成をめざす。

２　学習の到達目標

1，2 年次の理数化学の履修により得た基礎知識をベースにし、さらに無機物質、有機化合物、高分子化合物の学習を進め、化学に関する概念や法則を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できることを目標にする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自分の身の回りの自然に対して、疑問を持ち、その真理(原理)を追求する態度を持ち、その検証(実験)する姿勢を持っているか。	化学的な事物･現象を日常生活や社会と関連付けて考察できるか。	観察や実験の基本操作を習得し、そこから得られた結果を科学的に考察することができるか。	教科書で学習した知識に留まらず、自分の毎日の生活に当てはめて、その知識を利用できるか。
評価方法	･授業中の学習態度や実験へ取り組む姿勢 ･定期考査及び小テスト	・レポートの内容 ･定期考査及び小テスト	・実験時においての学習態度 ・実験レポートの内容	・実験レポートの考察で、どれだけ実生活と結びついて考察できているか。 ・授業中の発言や質問への回答 ・定期考査及び小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	化学反応の速さと平衡	化学反応の速さ 化学平衡 水溶液中野化学平衡	○	○		○	a:化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係、条件の変化に伴う量的変化の度について調べようとする態度が育っている b:活性化エネルギーを触媒の働きも含め、化学反応のしくみについて考えることができる d:化学平衡とは何か、また、条件変化による平衡移動がわかる	a:授業中の行動観察、発問に対する応答 b:定期考査及び小テスト d:授業中の発言や質問への回答、定期考査、提出物
	有機化合物	有機化合物の特徴と構造 炭化水素 アルコールと関連物質 芳香族化合物 有機化合物と人間生活		○	○	○	b:有機化合物の構造から一般的な性質を考察できる c:官能基からその反応を調べることができる d:各化合物について性質等を理解している	b:定期考査及び小テスト c:実験レポートや態度 d:定期考査及び小テスト
2	高分子化合物	天然高分子化合物 合成高分子化合物 高分子化合物と人間生活		○	○	○	b:高分子化合物の構造から一般的な性質を考察できる c:縮合の違いからその反応性を調べることができる d:殻化合物について性質等を理解している	b:定期考査及び小テスト c:実験レポートや態度 d:定期考査及び小テスト
	無機物質	周期表と周期 非金属元素の単体と化合物 典型元素の単体と化合物 遷移元素の単体と化合物 無機物質	○	○		○	a:無機物質について、日常生活と関連付け学ぶ姿勢がみられる b:各物質の周期表の位置から性質などを考えることができる d:各物質について性質等を理解している	a:授業中の行動観察、発問に対する応答 b:定期考査及び小テスト d:授業中の発言や質問への回答、定期考査、提出物

3		総復習 入試問題演習		○	○	○	b:入試問題について、解法の過程を考察し、ノートにまとめることができる c: 複合的な問題を読み解く力を身に付けている d: 問題に対し、既習の知識を活用し、意図を理解し的確に解答できる	b:ノート等の提出物 c:ノート等の提出物 d:ノート等の提出物

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。